

弘前大学保健管理概要

第45号



2024年

弘前大学保健管理センター

目 次

巻 頭 言：弘前大学保健管理センター所長 佐 藤 研	2
I 報 告	
教養教育における集団自律訓練法の適応に関する研究 －身体内受容感覚によるストレスマネジメント教育の試み－ The Integration of Group Autogenic Training in Liberal Arts Education: An Approach to Stress Management Through Interoception 弘前大学保健管理センター 高 橋 恵 子	3
II 令和5年度保健管理業務報告	
1. 保健管理センター年間行事	10
2. 保健管理センター業務対象学生及び職員数	12
3. 学生の健康診断	13
4. 職員の健康診断	22
5. 教育学部附属学校定期健康診断受検状況	29
6. 保健管理センター月別利用状況	30
III 令和5年度カウンセリング報告	32
IV 保健管理センター概況	34
編集後記	35

巻 頭 言

弘前大学保健管理概要45号をお届けします。

今年の弘前は降雪量が多く、一時、観測史上最高の積雪量を記録しました。積雪量が160cmに達し、遠方から弘前大学に進学した大学1年生の中には、雪に驚いた学生も少なくないかもしれません。また、本学は海外の62大学等と大学間交流協定を結んでおり、17か国から留学生を受け入れています。雪が降らない国から留学している学生は、さらに驚きがあるのかもしれません。

留学生が留学中にケガや体調不良で保健管理センターを訪れるケースも多くなっており、短期留学の学生では、日本語や英語でのコミュニケーションが十分でないことも少なくありません。最近では、スマートフォンでの自動翻訳機能やAI翻訳などの便利なツールもありますが、診断や治療の説明や医療機関への紹介などに関する説明を伝えるのに苦慮するケースがあります。そこで、今回、留学生が医療機関を受診しやすいように、近隣の医療機関に留学生対応の可否に関して問い合わせを行い、対応可能な医療機関のリストを作成しました。また、救急時の対応として、近隣の消防署から指導員を派遣していただき、AEDトレーニングキットと人形を用いた心肺蘇生トレーニングも実施しています。今後も留学生が安心して大学生活を送れるような、健康支援について検討が必要と考えています。

また、弘前大学保健管理センターでは、2023年度の学生、職員健診から、ICカードを用いた健診の運用を開始しています。データのIT管理が可能となり、学生、教職員とも各自、オンライン上で検査結果を確認することが可能となりました。2年間が経過し、システムの運用に関してはだいぶ慣れてきた印象ですが、健診に関するアンケートを実施したところ、健診に関する学生の認識や健康への関心、健診結果の確認などに関しては、まだまだ周知が不足している印象もあり、今後、さらに健診の運用、周知、学生、教職員の健康に活用できるような工夫など、課題が少なくないことを実感しました。健診の実施にあたっては、学内外の関連機関や部署にお世話になっており感謝しておりますが、今後とも連携させていただき、課題の解決に向けて前進できればと考えております。

最後に、今年は7月10日、11日の両日、本学で全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会を担当させていただきます。東北地区の保健管理センターの皆様におかれましては、ご指導、ご協力のほど、よろしく願いいたします。センター職員一同、皆様のご参加をお待ちしております。

令和7年3月

弘前大学保健管理センター所長

佐 藤 研

I 報 告

教養教育における集団自律訓練法の適応に関する研究 —身体内受容感覚によるストレスマネジメント教育の試み—

The Integration of Group Autogenic Training in Liberal Arts Education: An Approach to Stress Management Through Interoception

高橋 恵子

(弘前大学保健管理センター)

要旨：近年、AI技術をはじめとするデジタル化の進展により、学生を取り巻く環境は大きく変化し、身体的な経験よりも、情報への依存が高まる傾向が指摘されている。このような環境においては身体への内受容感覚が低下し、ストレス対処や情動調整が困難になりやすい状況がある。また、青年期は自己確立が発達課題であり、この過程において、身体性は自己認識と不可分な関係にある。本研究では、大学の教養教育において、自律訓練法（Autogenic Training: AT）を活用した週1回の対面集団練習を実施し、その教育的効果について検討した。参加者の体験報告から、ATの受動的注意集中により内受容感覚への気づきが促され、公式練習を介して身体性への意識が深まった。集団練習では、参加者間で呼吸を合わせ、同じ「場」を共有することで、ピア同士のつながりの一体感や、心理的安心感の向上がみられた。さらに、継続的なAT公式練習によって心身のフィードバックループが強化され、マインドフルネスに基づく感情ストレスマネジメントの向上が示唆された。内受容感覚への気づきが促されることは、早期のストレス対処を可能にし、結果としてレジリエンスの向上が期待される。本研究の結果は、大学教育における身体性を活用した経験的な学びとしてのATの有効性を示し、身体感覚と感情の統合を促す新たな教育的枠組みの可能性を提示するものである。今後の研究では、これらの身体性に基づく感情ストレスマネジメント教育の可能性についてのさらなる探索が求められる。

キーワード：健康教育、自律訓練法、身体性、内受容感覚、感情ストレスマネジメント

I 背景と目的

近年、AIをはじめとする急速なデジタル化の生活スタイルの変容により、学生を取り巻く環境は大きく変わりつつある。そのひとつに「身体的な経験」よりも「情報」への依存が高まる傾向がある。情報が氾濫する環境では、常に多くの情報を処理することが求められ、内的な感覚や心の状態を無視することが習慣化されやすい。日常的に長時間にわたり外部情報にさらされることで身体感覚や内面の声に意識を向けることが少なくなり、内受容感覚の気づきが低下しやすい傾向がある。

内受容感覚（interoception）¹⁾は、心拍、呼吸、消化などの身体内部の状態を感じ取る感覚であり、それを意識的にモニターする能力と関連している。身体と情動は自律神経系を介して相互に影響を及ぼしており、健康状態にも関与する。内受容感覚が低下すると、身体の不調を認識しにくくなり、結果として健康が損なわれやすい。自律神経系には、生体を活動状態へと向かわせる交感神経の機能（ergotropic state）と、休養・回復を促進する副交感神経の機能（trophotropic state）の二面性があることが知られている²⁾。これらの機能は自律神経の調整メカニズムを理解する上で重要であり、近年の研究では、内受容感覚の向上が自律神経の調整に関与することが示唆されている³⁾。

こうした背景のもと、心身の統合を促し、ストレス対処や自律神経系の調整に活用される技法として自律訓練法（Autogenic Training: AT）が注目される。ATは、ドイツのシュルツ（J.H. Schultz）によって体系化されたリラクゼーション法である。ATの実践中には、自律性解放（autogenic discharge）と呼

ばれる心理的・生理的現象が生じることがあり、これらの働きは生体の安定を促す向ホメオスタシス状態 (pro-homeostatic state) に寄与している⁴⁾。

青年期は自己の確立が課題となる時期であり、大学の教養教育において心身の健康を見つめ直す心理教育を行う意義は大きい。特に大学入学直後の新生は、環境の変化に適応する過程でストレスを抱えやすい傾向にある。自己の身体感覚への気づきが不足しがちな中、ATを通じた内受容感覚の向上は、ストレス耐性の強化につながり、学業や日常生活における自己調整力の向上を支援する。

ATには、以下のような特徴がある。①訓練技法が体系化されていること、②主観的な思い込みではなく生理的なフィードバック (身体性) が重視されていること、③学生が主体的に学ぶセルフ・コントロールの技法であることである。これらの要素により、心身の調整機能を高める健康教育としての効果が期待される。

近年、「ストレス」という言葉にはネガティブなイメージが付きまといやすい。しかし、日々の生活の中で思い通りにならない状況は避けられず、ストレスとの上手なつきあい方を身につけることは極めて重要である。青年期は自己確立の過程にあり、しばしば幼虫がサナギの中で成虫に変態する「疾風怒濤の時期」⁵⁾ に擬えられる。大学には、学生がこの成長過程を主体的に歩むための環境を整え、支援する役割が求められる。その一環として、保健管理センターでは、学生が自身の心身と向き合う機会を提供し、健康的な生活習慣や、セルフケアの実践を促す取り組みを進めている。

本研究では、大学の教養教育において、ATを活用した健康教育の実践とその効果について検証する。特に学生のレジリエンスを上げる感情ストレスへの対応として、ATによる心と身体との対話を通じた内受容感覚のモニタリング能力の向上、それらに対するマインドフルネスな態度の形成過程に着目し、ATの教育的意義とその有用性について検討を行った。

Ⅱ 方 法

1. 対象

令和6年4月から7月にかけて、教養の健康教育を受講している大学生68名 (男性25名、女性43名、平均年齢 18.7 ± 0.83 歳) を対象に、週1回の集団AT練習を対面で実施した。

2. 手続き

AT健康教育の導入、実施の手続きについて表1に示す。

(1) 準備期

まずはじめに自律神経の働きなど心身に関する健康教育を行った。各自のストレス反応をチェックして関心を高め、ボディワークへの動機付けを行った。ATを始める前の準備として「姿勢」を整えること、「呼吸」の観察、「筋弛緩法」などを行い、身体への意識化を促した。

(2) ATの公式練習

AT標準練習は表2に示す通りである。本研究では第1公式 (四肢重感) と第2公式 (四肢温感) を重点的にを行い、毎週ステップバイステップで、段階的に公式練習を進めた。第1公式では筋肉の緊張が緩み体がリラックスした状態を、第2公式では血流が良くなり手脚がほどよく温かい状態を表している。

毎回のAT練習のタイミングは、授業冒頭の3~5分間を使

表1 AT 健康教育の導入・実施手続き

1. 準備期	心身相関の健康教育の基礎講義 姿勢や呼吸の観察、筋弛緩法など、心と体の状態を整える
2. AT実施 (標準練習の第1と第2公式を重点的に)	授業冒頭の3~5分間を使って公式練習 (集団) 体験内容を記録用紙に記載
3. ホームワーク	反復練習を通じてATの習慣化を支持 体験の記録用紙を配付
4. フィードバック	授業で気づきや体験内容を仲間同士で共有 Microsoft Formsを通じたフィードバックでふり返りを行った

表2 自律訓練法の標準練習

背景公式	「気持ちが落ち着いている」
第1公式	四肢重感「両腕・両脚が重たい」
第2公式	四肢温感「両腕・両脚が温かい」
第3公式	心臓調整「心臓が静かに規則正しく打っている」
第4公式	呼吸調整「楽に呼吸 (いき) をしている」
第5公式	腹部温感「お腹が温かい」
第6公式	額部涼感「額が心地よく涼しい」
消去動作	取り消し動作 (両手の開閉、両肘の屈伸、背伸び)

い、練習後は必ず覚醒のための消去動作を行うよう指導した。体験した内容は、AT記録用紙⁴⁾に記載して、ふり返しを行った。ATの練習ペースは各参加者の主体性に委ね、参加を強制することはなかった。また、体調やコンディションに応じて、観察のみの参加も自由とした。

(3) ホームワーク

参加者にはホームワークとして、1日に1～3回のAT練習を行うことを推奨した。体験は記録用紙に記載し、授業のなかで気づきや体験内容を共有した。

3. 調査アンケート

中間と期末には、Microsoft Formsを通じて体験のフィードバックを収集するアンケート調査を実施した。調査項目には、練習頻度、公式の修得度、改善された症状、体験に関する自由記述が含まれた。

公式の習得度の評価は、腕および脚の重感・温感について、「全くわからなかった」(1点)、「少しわかった」(2点)、「かなりわかった」(3点)、「とてもわかった」(4点)、「非常にわかった」(5点)の5件法を用いた。データの解析には、統計ソフトSPSS Statistics 19を使用した。提出されたデータは、個人が特定されないよう統計的に処理し、ATの習得度の評価が個人の成績や評価には影響しないことを明示した。

Ⅲ 結果

1. ATの公式練習

ATの公式習得度を図1に示す。第1公式(重感)および第2公式(温感)について、4点または5点(「とてもわかった」「非常にわかった」と評価した割合は、腕で平均49.3%、脚で平均29.5%であった。

練習頻度については、参加者の63%が「毎日1~2回」「毎日3回以上」の自宅練習を行っていた(図2)。また改善がみられた症状としては、緊張・不安、疲労感、睡眠に関するものが多かった(図3)。

2. 身体感覚の意識化とそのプロセス

多くの受講生にとって、日常生活において身体に意識を向ける機会ほとんどなく慣れていない状態からのスタートであった。通常、身体感覚は不調を感じたときに初めて意識されることが多いが、逆に特定の部位に注意が向きすぎた場合は、不調を強める場合もある。本実践では、自分の「いま、ここ」の身体を観察することから、気づきの第一歩が始まった。まずは自然に息を吸ったり吐いたりする時の胸や腹の動きを観察したり、姿勢で背を伸ばしたり丸めたりした際に気分がどう変わるかなどを観察し

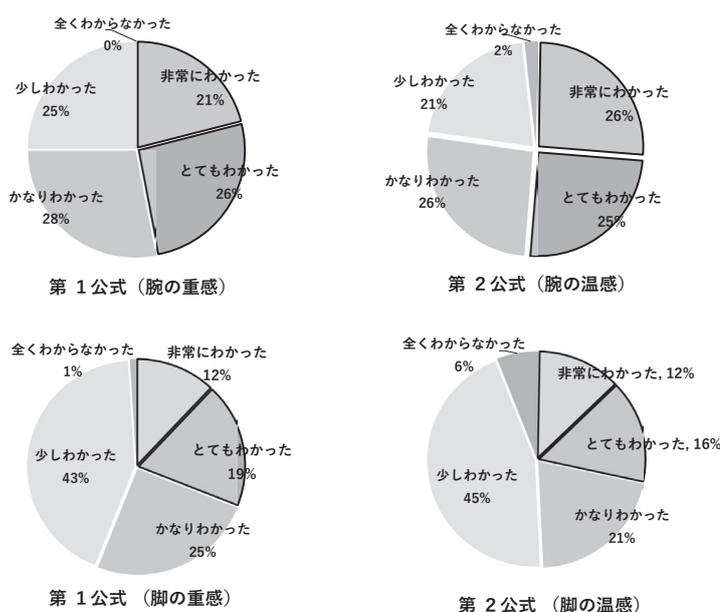


図1 AT公式の修得度

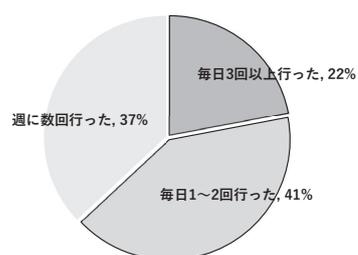


図2 ATの練習頻度

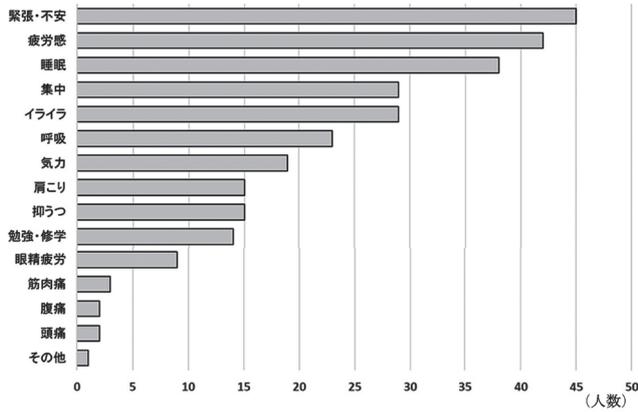


図3 改善症状（複数回答）

表3 身体感覚を意識化する過程で学んだこと

AT 導入前

1. 筋弛緩法を試すことで無意識に入っていた体の力が抜けた
例：「力がじわじわと抜けていく感覚を感じた」
2. 日頃の姿勢を意識すること
例：「授業中に思い出して姿勢を直すときより集中力が高まった感じ」
「眠気が少なくなった」

AT 公式練習

1. 徐々に変わっていく身体感覚について
例：「繰り返し練習することで感じが少しずつ変わってきた」
「第1公式を行うと体に血がめぐって温くなる感じ」
2. 体の感じ方、および個人差の体験
例：「腕の左右で体感が異なることに戸惑った」
「友だちと体の左右の感じ方が違っていておもしろい」
3. リラックスする効果
例：「リラックスすることで“重さ”を感じやすくなった」
「肩の力を抜くことで楽になり、より感じられるようになった」
4. 他者からの学び
例：「他の人がうまくできているのを見て、自分も試してみた」

た。これらをアウトプットし、ピア同士がフィードバックし合うことで、身体感覚の意識化を促した。参加者が身体感覚を意識化する過程で得た学びについて表3に示す。

(1) AT導入前

ATの準備として実施した「筋弛緩法」によって、無意識に入っていた身体の力が「じわじわと抜けていく」感覚を覚え、日常的な緊張に気づききっかけとなった。また、「姿勢」を意識することで、「授業中に思い出して姿勢を直すと猫背のときより集中力が高まった」、「眠気が少なくなった」などの報告がみられた。

(2) ATの公式練習

公式の習得過程では、身体感覚が少しずつ変わっていく変化のプロセスが報告された。腕や脚の「重さ」や「温かさ」を感じる際には、受動的注意集中というATに特徴的な意識の向け方を体験的に修得する必要がある。そして、これらは内受容感覚のモニタリング能力とも関連している。

参加者からは、「繰り返し練習することで、少しずつだが感覚が変わってきた」「重感練習を行うと、体に血が巡って温かくなった気がした」などの報告がみられた。また体の左右差（腕と脚、各部位の違い）を認識することで、身体との適切な距離感に気づききっかけとなったことも報告されている。さらに「リラックスすることで“重さ”を感じやすくなった」「肩の力を抜くことで楽になり、身体感覚がより明確になった」など、リラックスに関する効果も報告された。

3. 集団ATの適応とその効果

集団でのAT練習では、参加者同士が互いの存在を感じる、いわゆる「場の効果」が認められた。ATは、内なる身体（自己）との対話であるとともに、その場を共有する「他者」との出会いがあり、非言語的な一体感やつながりの体験に繋がった。体験報告からは、「みんなで行うので途中で断念することがない」といった支持的な効果や、仲間と呼吸（いき）を合わせて行うノンバーバルな安心感の高まりなどが報告された（表4）。

一方の個人練習（ホームワーク等）では、「自分のペースでゆったりと落ち着いてできる」「自己の内部により深く集中して取り組むことができた」「好きなタイミングで練習できた」といった集団とは補完的な練習効果が報告された。

4. 身体内受容感覚の賦活と情動調整力

ATの集団練習を通じて、参加者からは表5に示されるような健康促進の効果が報告された。身体の内受容感覚に気づくことでストレスへの理解が深まり、呼吸で気分が落ちついたことにより精神が安定した

表4 集団AT練習の学習効果

<p>1. 集中できる 例：「集中力が続く。みんなで行うので途中で断念したりすることがない」 「みんなが行っていると思うと自分も焦らずに落ち着いた気持ちで練習できた」 「それぞれに集中している雰囲気を感じて一体感があった」</p> <p>2. 一体感と安心感 例：「周りの人と呼吸をあわせその空気に包まれながら学習できるのでやりやすい」 「みんなでやっている一体感が生まれて安心して行うことができた」 「静かだけど周りがあったかい雰囲気だった」「集団が以前より苦でなくなった」 「慣れない場所でもリラックスでき、ATの有用さを感じた」</p> <p>3. 正しいやり方の確認 例：「指導者が詳しく教えてくれるので、自分が今どんな状態か照らし合わせながら練習することができた」</p> <p>4. 他者との交流 例：「他の人の感じ方を聞いて体験をすぐに共有できた」 「周りがやっているのを見て自分もやる気になった」 「人それぞれの体験や感じ方があり、他者のことも理解できるようになった」</p> <p>5. 習慣の強化 例：「毎週決まったタイミングでやるから習慣化される」 「周りに触発されてATに取り組む姿勢が強化された」</p> <p>個人練習（ホームワーク等）</p> <p>(1) 自分のペースでできる 「自分のペースでゆったりと落ち着いて行える。消去動作も十分におこなえた」</p> <p>(2) リラックスしやすい環境 「自分の最もリラックスできる場所で行える」</p> <p>(3) 集中しやすい環境 「自分の内部に深く集中し、より落ち着いた状態で取り組むことができる」</p> <p>(4) 自由なタイミングで練習可能 「自分のタイミングで始めてやめることができる。寝る前にもやることができる」</p> <p>(5) 他者の影響を受けない 「誰にも邪魔されず、自分だけに集中できる幸せな空間」</p>

表5 ATによる健康促進とレジリエンス効果

<p>1 内受容感覚の賦活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体の状態を気づくことによって疲労感や不安などを感じていても軽減されることを学んだ ・自分の心や体の状態を知ることで、ストレスが理解しやすくなった <p>2 情動調整力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸をして気分が落ち着くと集中することができる ・自律訓練法を行って体がほぐれると心もほぐれる ・心が落ち着いていると体の状態もよくわかるようになった ・姿勢や呼吸で精神を安定させることができた ・重さを意識したり感じたりするだけで気持ちが驚くほど変わって落ち着いた <p>3 心と体の結びつきとレジリエンス効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心と体は表裏一体で、今までなんとなく感じていた体の不調もいろいろ原因があることを知ってとても興味深かった ・自分の心や体の状態を理解することで、気持ちが落ち着いたりリラックスできることを実感した ・心と体のつながりについて意識するようになってから、自律神経と心の状態の結びつきは本当に強いと感じた <p>4 日常生活への応用・実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝起きた後、呼吸法をしたことで体が軽くなり、気持ちも前向きになることが多かった ・焦っていた時、体をリラックスすることで心も自然にリラックス状態になった

経験など、AT体験を通じて、これまで漠然と感じていた身体の不調に対して、さまざまな要因が関与していることへの気づきが促された。総じて、自律神経の働きと心理状態との関係に対する認識が深まり、ストレス反応への適切な対処が可能になっただけでなく、気持ちの落ち着きやリラックス感の向上につながったことが示唆される。

対処法を学んだ参加者はATを日常生活にも応用するようになり、朝起きた後、呼吸法を試すことで気持ちが前向きになった経験や、あるいは焦りを感じた際に体をリラックスさせることで自然に心が落ち着いた経験などが報告された。

身体感覚の認識は、心身相関への気づきを促し、ストレスの受けとめ方や対処行動の選択肢を広げる新たな学習につながっている。これらの体験により、身体性を通じた自己理解が深まり、より適応的な感情ストレスマネジメント能力の向上が促されたものと考えられる。

Ⅳ 考 察

1. 身体性の回復と内受容感覚への気づき

近年の研究では、長時間のソーシャルメディア使用が、集中力や深い思考力の低下に加え、精神的健康への悪影響、自己評価の低下、学業成績の低迷とも関連することが指摘されている⁶⁾。このような社会状況において、身体内受容感覚への気づきは、健康の維持・増進に不可欠な要素と考えられる。本研究では、心と身体の統合を促すATを通じたストレスマネジメント教育の可能性について検討した。

ストレス関連疾患として知られる心身症の中核群には、失感情症や失体感症が含まれ、これらは情動や身体感覚への気づきが乏しい状態を示す^{7) 8)}。身体内受容感覚は、生体のホメオスタシス状態を感知し、それに基づく生理的・心理的な調整作用を促す⁹⁾。また、心拍、血圧、呼吸などの身体内部の状態をモニタリングし、それらの変化を認識・統合する役割を持つ¹⁰⁾。感情の生起に伴う身体反応の多くは、内受容感覚器によって検出され、感情を意識化する過程には、自らの身体内部を参照するプロセスが含まれる¹¹⁾。このように、内受容感覚への気づきは、適切な身体制御や感情調整に関与している。

一方で、内受容感覚が過敏すぎる場合、強い感情経験や不安傾向を引き起こす可能性がある¹²⁾。逆に、内受容感覚が鈍麻すると、うつ病、人格障害、失感情症、失体感症などとの関連が指摘されている。このように、感情が内受容感覚に影響を与える際には、単なる身体状態の知覚だけでなく、それがどのように認識されるかが重要となる。

2. ATによる身体・感情統合のプロセス

本研究では、ATの受動的注意集中の状態が、普段は意識されにくい内受容感覚（重感、温感、呼吸など）への気づきを促した。また、ATの自律性解放により、身体内受容感覚の緊張が緩和されるとともに、自律神経系のバランスが整えられた。さらに、継続的な公式の反復練習によって心身のフィードバックループが強化され、その結果、心身の状態をありのままに観察し、受け入れるマインドフルネスな態度が育成されたことがうかがわれる。内受容感覚が賦活されることは、早期のストレス対処を可能にし、結果としてレジリエンスの向上が期待される。

さらに、集団におけるATの実践では、参加者間で呼吸（いき）を合わせ、同じ「場」を共有する一体感の強化が報告された。このような社会的つながりは、腹側迷走神経系の活性化を促し、孤立感の軽減や心理的な安心感の向上に寄与する可能性が示唆される¹³⁾。

3. 集団ATの教育的意義と今後の展望

身体感覚の気づきを促進する訓練を受けた人々は、主観的な情動と心拍のリズムに対する感覚との整合性が高かったことが示されている¹⁴⁾。これは、内受容感覚の鋭敏化が、感情と身体の状態の統合を促すことを示唆している。人間はAIとは異なり、身体を通じて自己を認識し、情動を調整する自己調整力をもっている。ATは、その自己調整力を養う方法のひとつであり、心と体をつなぐ対話を通じて、身体性への気づきを促す。ATの第1公式「重感」および第2公式「温感」は、その対話の過程において、身体の緊張を和らげ、筋弛緩や血液循環を高めるとともに、自律神経の調整を促し、ホメオスタシスの維持に寄与する。さらに、心理療法においても、身体性と自己認識は切り離せない関係にあり、内受容感覚への気づきは自己認識の深化につながっている。

大学の教養課程において、仲間とともにATの集団練習を行うことは、ピア同士が身体性を共有する「経験的な学び」としての意味を持つ。これらの体験を通じて、学生は自身の身体感覚への気づきを深め、自己と他者、心と体の統合的なプロセスを学んでいく。今後の研究では、身体感覚と感情の統合を促すストレスマネジメントの枠組みを探求し、身体性を活かした健康教育の可能性をさらに深め、実践へとつなげ

ていくことが求められる。

文 献

- 1) Farb, N. A. S., Daubenmier, J., Price, C. J., Gard, T., Kerr, C., Dunn, B. D., Klein, A. C., Paulus, M. P., & Mehling, W. E. Interoception, contemplative practice, and health. *Frontiers in Psychology* 2015 ; 6, 763.
- 2) Hess, W.R. *Psychologie in Biologischer Sicht*. 1962.
- 3) Critchley, H. D., & Garfinkel, S. N. Interoception and emotion. *Current Opinion in Psychology* 2017; 17: 7-14.
- 4) 松岡洋一, 松岡素子. 自律訓練法. 日本評論社 2009.
- 5) Hall, G. S. Adolescence: Its psychology and its relations to physiology, anthropology, sociology, sex, crime, religion, and education ; 1 & 2. D. Appleton & Company 1904.
- 6) Shanmugasundaram, M., & Tamilarasu, A. The impact of digital technology, social media, and artificial intelligence on cognitive functions: A review. *Frontiers in Cognitive Science* 2023 ; 2. DOI: 10.3389/fcogn.2023.1203077
- 7) Ikemi Y. Psychosomatic medicine as a core of holistic medicine. *Shinshin-igaku* 1990 ; 30 : 251-260.
- 8) 守口 善也. 心身症とアレキシサイミア-情動認知と身体性の関連の観点から-. 心理学評論, 2014; 57(1): 77-92.
- 9) Sherrington, C. S. The integrative action of the nervous system.: Yale University Press 1906.
- 10) Craig, A. D. How do you feel? Interoception: The sense of the physiological condition of the body. *Nature Reviews Neuroscience* 2002; 3(8): 655-666.
- 11) 寺澤悠理, 梅田 聡. 内受容感覚と感情をつなぐ心理・神経メカニズム. 心理学評論. 2014 ; 57(1): 49-66.
- 12) Paulus, M. P., & Stein, M. B. Interoception in anxiety and depression. *Brain Structure and Function* 2010 ; 214(5-6): 451-463.
- 13) Porges, S. W. The polyvagal theory: phylogenetic substrates of a social nervous system. *International Journal of Psychophysiology* 2001; 42(2): 123-146.
- 14) Sze, J. A., Gyurak, A., Yuan, J. W., & Levenson, R. W. Coherence between emotional experience and physiology: Does body awareness training have an impact? *Emotion* 2010 ; 10(6): 803-814.

Ⅱ 令和5年度保健管理業務報告

令和5年度

1. 保健管理センター年間行事

月	行 事	内 容	対 象	備 考
4月	幼児・児童・生徒 定期健康診断(4月～6月)	※後記載	附属学校園(幼・小・中・特別支援)	第1回
	学生特別定期健康診断	1. 末梢血、問診票 2. 問診票(放射線業務従事者) 3. HBs抗原・抗体、HCV抗体	1. 医学科2年 2. 保健学科(放射線技術科学3年・4年) 3. 保健学科2年、心理支援科学科2年	
	学生定期健康診断 (4月～7月)	1. Web問診、胸部レントゲン、 内科診察、血圧、身長・体 重 2. Web問診、胸部レントゲン、 尿検査、血圧、身長・体重 3. Web問診、尿検査、血圧、 身長・体重	1. 新入生(学部生・編入学生) 2. 医学部(在学生・大学院生)、大学 院1年 3. 上記1. 2. 以外の学生・大学院生	
5月	職員特殊健康診断	各取扱物に対する受検項目 (外注)	有機溶剤・特化物・電離放射線業務従 事者	第1回
	職員特定業務従事者 健康診断	問診票、体重、血圧、検尿、視力・ 聴力(問診)	深夜業務従事者(看護師、週1回以上 の宿直該当者)、病原体・ホルムアルデ ヒド・エチレンオキシドを扱う業務従 事者	第1回
	生徒・児童心電図検査 (5月～6月)	心電図検査	附属学校(小1年、中1年)、特別支 援学校(小1年、中1年、高等部1年)	第1回
	学生特別定期健康診断	末梢血、問診票	RI実験室立入学生	
6月	学生検尿再検(6月・7月)	早朝尿又は夕食後尿	定期健康診断検尿要再検者(二次検尿)	第1回
	職員情報機器作業従事者 健康診断	Web問診(情報機器作業従事者)	情報機器作業従事者	
7月	職員心電図検査と血液検査	心電図、AST、ALT、 γ -GT、 中性脂肪、HDLコレステロール、 LDLコレステロール、クレアチ ニン、貧血検査、血糖、腹囲測 定	35歳と40歳以上の職員 (文京町地区7月、本町地区11月・12月 に実施)	第2回
8月	職員定期健康診断(外注)	胸部レントゲン、尿検査、血圧、 身長・体重、視力、聴力、問診、 心電図、肝機能、脂質、腎機能、 貧血検査、血糖、腹囲測定	附属学校職員 (附属農場11月に実施)	
9月	職員一般定期健康診断 (兼特定業務従事者健康診 断)	胸部レントゲン、尿検査、血圧、 身長・体重、視力、聴力、問診	全職員 (文京町地区9月、本町地区9月・10月 に実施)	第2回
10月	学生特別定期健康診断	1. 末梢血、問診票 2. 問診票(放射線業務従事者)	1. 保健学科(放射線技術科学2年) 2. 保健学科(放射線技術科学3年、4年)	
	学生定期健康診断	Web問診、胸部レントゲン、尿 検査、血圧、身長・体重	秋季入学大学院生	
	総合文化祭	救護班		
	総合型選抜入試	救護班		
	職員ストレスチェック	「職業性ストレス簡易調査票」 (57項目)	全職員	

月	行 事	内 容	対 象	備 考
11月	職員特殊健康診断	各取扱物に対する受検項目（外注）	有機溶剤・特化物・電離放射線業務従事者	第2回
	学生特別定期健康診断	末梢血、問診票	RI実験室立入学生	第2回
12月	季節性インフルエンザワクチン接種	ワクチン接種依頼に応じて実施	学務部職員（入試担当）希望者	
1月	大学入学共通テスト	救護班		
	職員大腸がん検診	便中Hb	40歳以上の職員（希望者）	
	学生特別定期健康診断	HBs抗原・抗体、HCV抗体	医学科4年、HBワクチンを接種した医学科5年	
2月	（入試）前期日程	救護班		
3月	（入試）後期日程	救護班		
	学生定期健康診断	Web問診、胸部レントゲン、尿検査、血圧、身長・体重	保健学科新4年（看護学・理学・作業療法学） （4月から実習で受診できないため）	

健康診断証明書 } 随時
健康相談 }
応急処置 }

※ 幼児・児童・生徒定期健康診断検査項目

1. 身長及び体重
2. 栄養状態
3. 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態
4. 視力及び聴力
5. 目の疾病及び異常の有無
6. 耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無
7. 歯及び口腔の疾病及び異常の有無
8. 結核の有無
9. 心臓の疾病及び異常の有無
10. 尿
11. その他の疾病及び異常の有無

備考

左記の検査項目のうち
幼稚園は8を除く項目を実施。
10は附属学校園すべて保健管理センターで実施。
8は小・中学校は問診票にて実施し、特別支援
学校高等部は胸部レントゲン実施。
中学校の2.3.5.6.9.11は附属病院等にて実施。

2. 保健管理センター業務対象学生及び職員数

大学

令和5年5月1日現在

学 部	性別	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
人文社会科学部	男	127	120	112	171			530
	女	158	163	168	156			645
教育学部	男	63	62	51	75			251
	女	108	105	114	114			441
医 学 科	男	69	73	92	71	70	76	451
	女	53	60	54	49	61	72	349
保健学科 (心理支援科学科)	男	68	62	61	75			266
	女	149	150	158	147			604
理工学部	男	305	320	308	373			1,306
	女	56	39	58	49			202
農学生命科学部	男	124	149	115	145			533
	女	96	77	102	109			384
計	男	756	786	739	910	70	76	3,337
	女	620	594	654	624	61	72	2,625
合 計		1,376	1,380	1,393	1,534	131	148	5,962

大学院

学 部	性別	1年次	2年次	3年次	4年次	計
人文社会科学研究科	男	12	13			25
	女	8	14			22
人文社会科学研究科 (秋季入学)	男	2				2
	女	0				0
教育学研究科	男	9	10			19
	女	7	9			16
医学研究科	男	40	40	41	73	194
	女	16	26	25	35	102
医学研究科 (秋季入学)	男	1				1
	女	1				1
保健学 研究 科 程 博士 前期 課 程	男	17	22			39
	女	10	18			28
保健学 研究 科 程 博士 後 期 課 程	男	11	7	17		35
	女	2	5	12		19
理工学 研究 科 程 博士 前期 課 程	男	120	113			233
	女	15	14			29
理工学 研究 科 程 博士 前期 課 程 (秋季入学)	男	1				1
	女	0				0
理工学 研究 科 程 博士 後 期 課 程	男	8	5	12		25
	女	2	4	4		10
理工学 研究 科 程 博士 後 期 課 程 (秋季入学)	男	3				3
	女	1				1
農学生命科学研究科	男	45	30			75
	女	15	14			29
農学生命科学研究科 (秋季入学)	男	2				2
	女	3				3
地域社会研究科	男	4	5	13		22
	女	1	2	9		12
地域社会研究科 (秋季入学)	男	3				3
	女	0				0
地域共創科学研究科	男	14	24			38
	女	12	19			31
計	男	292	382	83	74	716
	女	93	125	50	35	302
合 計		385	507	133	109	1,018

職員

令和5年9月1日現在

部 局	性別	職員数	35歳と40歳以上	40歳以上	40歳
事務局 ※	男	197	151	145	2
	女	182	134	128	8
人文社会科学部	男	65	53	53	2
	女	25	21	17	0
教育学部	男	123	102	99	5
	女	103	83	78	3
医学研究科	男	173	132	128	3
	女	145	103	98	8
保健学研究科	男	57	48	46	3
	女	57	44	44	0
医学部附属病院	男	386	141	130	13
	女	946	479	453	21
理工学研究科	男	104	87	85	2
	女	23	16	16	0
農学生命科学部	男	89	79	79	1
	女	28	20	20	0
計	男	1,194	793	765	31
	女	1,509	900	854	40
合 計		2,703	1,693	1,619	71

※附置研究所、機構、本部、学内共同施設等を含む

教育学部附属学校

学 校	性別	児童・生徒数
小 学 校	男	224
	女	249
中 学 校	男	191
	女	188
特別支援学校	男	42
	女	10
幼 稚 園	男	24
	女	17
計	男	481
	女	464
合 計		945

3. 学生の健康診断

(1) 定期健康診断受検率及び結果

①大学生（新入生・編入学生）

学 部	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目		
				胸 部 写 真		血 圧 測 定
				受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)	受 検 者 数 (%)
人 文 社 会 学 部	1	男	127	84 (66.1)	1 (1.2)	84 (66.14)
		女	158	137 (86.7)	1 (0.7)	137 (86.71)
教 育 学 部	1	男	63	58 (92.1)	1 (1.7)	58 (92.1)
		女	108	107 (99.1)	1 (0.9)	107 (99.1)
医 学 部 (医学科)	1	男	60	57 (95.0)	1 (1.8)	57 (95.0)
		女	52	51 (98.1)		51 (98.1)
医 学 部 (保健学科)	1	男	67	66 (98.5)		66 (98.5)
		女	140	140 (100.0)		140 (100.0)
医 学 部 (心理支援科学科)	1	男	1	1 (100.0)		1 (100.0)
		女	9	9 (100.0)		9 (100.0)
理 工 学 部	1	男	305	241 (79.0)	1 (0.4)	241 (79.0)
		女	56	51 (91.1)	0 (0.0)	51 (91.1)
農 学 生 命 学 部	1	男	124	101 (81.5)	3 (3.0)	101 (81.5)
		女	96	78 (81.3)	0 (0.0)	78 (81.3)
医 学 科 (編入学生)	2	男	16	15 (93.8)		15 (93.8)
		女	4	4 (100.0)		4 (100.0)
保 健 学 科 (編入学生)	3	男	0			
		女	1	1 (100.0)		1 (100.0)
理 工 学 部 (編入学生)	3	男	5	5 (100.0)		5 (100.0)
		女	3	3 (100.0)		3 (100.0)
農 学 生 命 学 部 (編入学生)	3	男	3	2 (66.7)		2 (66.7)
		女	0			
小 計		男	771	630 (81.7)	7 (1.1)	630 (81.71)
		女	627	581 (92.7)	2 (0.3)	581 (92.7)
合 計			1,398	1,211 (86.6)	9 (0.7)	1,211 (86.62)

注) 空欄は該当者なし

②大学生（医学部在学生）

学 部	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目						
				胸 部 写 真		尿 検 査 ※			血 圧 測 定	
				受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)	受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)			受 検 者 数 (%)
							蛋 白	糖	潜 血	
医 学 科	1	男 女	9 0	7 (77.8)		7 (77.8)				7 (77.8)
	2	男	56	55 (98.2)		54 (96.4)				55 (98.2)
		女	56	56 (100.0)		56 (100.0)				56 (100.0)
	3	男	92	75 (81.5)		75 (81.5)		1 (1.3)		75 (81.5)
		女	54	53 (98.1)		53 (98.1)			1 (1.9)	53 (98.1)
	4	男	71	67 (94.4)		67 (94.4)	2 (3.0)	1 (1.5)	2 (3.0)	67 (94.4)
		女	49	48 (98.0)		48 (98.0)				48 (98.0)
5	男	70	61 (87.1)		61 (87.1)				61 (87.1)	
	女	61	55 (90.2)		55 (90.2)				55 (90.2)	
計	男	374	334 (89.3)	1 (0.3)	334 (89.3)	2 (0.6)	2 (0.6)	3 (0.9)	334 (89.3)	
	女	291	277 (95.2)	2 (0.7)	277 (95.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	277 (95.2)	
保 健 学 科	2	男	60	59 (98.3)		59 (98.3)				59 (98.3)
		女	141	140 (99.3)		140 (99.3)	3 (2.1)	1 (0.7)	1 (0.7)	140 (99.3)
	3	男	58	55 (94.8)	1 (1.8)	55 (94.8)				55 (94.8)
		女	149	142 (95.3)		142 (95.3)	2 (1.4)		2 (1.4)	142 (95.3)
4	男	71	65 (91.5)		65 (91.5)				65 (91.5)	
	女	141	133 (94.3)	1 (0.8)	133 (94.3)	2 (1.5)		1 (0.8)	133 (94.3)	
計	男	189	179 (94.7)	1 (0.6)	179 (94.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	179 (94.7)	
	女	431	415 (96.3)	1 (0.2)	415 (96.3)	7 (1.7)	1 (0.2)	4 (1.0)	415 (96.3)	
心 理 支 援 学 科	2	男	2	2 (100.0)		2 (100.0)				2 (100.0)
		女	9	9 (100.0)		9 (100.0)			1 (11.1)	9 (100.0)
	3	男	3	3 (100.0)		3 (100.0)				3 (100.0)
		女	8	8 (100.0)		8 (100.0)	1 (12.5)	1 (12.5)		8 (100.0)
4	男	4	4 (100.0)		4 (100.0)				4 (100.0)	
	女	6	5 (83.3)		5 (83.3)				5 (83.3)	
計	男	9	9 (100.0)		9 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	
	女	23	22 (95.7)		22 (95.7)	1 (4.5)	1 (4.5)	1 (4.5)	22 (95.7)	
小 計	男	572	522 (91.3)	2 (0.4)	522 (91.3)	2 (0.4)	2 (0.4)	3 (0.6)	522 (91.3)	
	女	745	714 (95.8)	3 (0.4)	714 (95.8)	8 (1.1)	2 (0.3)	6 (0.8)	714 (95.8)	
合 計			1,317	1,236 (93.8)	5 (0.4)	1,236 (93.8)	10 (0.8)	4 (0.3)	9 (0.7)	1,236 (93.8)

※ 一次検診
注) 空欄は該当者なし

③在学生 (医学部以外)

学 部	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目				
				尿 検 査 ※			血 圧 測 定	
				受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)			受 検 者 数 (%)
					蛋 白	糖	潜 血	
人 文 社 会 科 学 部	2	男	120	51 (42.5)	1 (2.0)	1 (2.0)		51 (42.5)
		女	163	115 (70.6)	2 (1.7)		3 (2.6)	115 (70.6)
	3	男	112	64 (57.1)				64 (57.1)
		女	168	118 (70.2)			1 (0.8)	118 (70.2)
	4	男	171	79 (46.2)	3 (3.8)			79 (46.2)
		女	156	100 (64.1)	1 (1.0)	1 (1.0)	1 (1.0)	101 (64.7)
	計	男	403	194 (48.1)	4 (2.1)	1 (0.5)	0 (0.0)	194 (48.1)
		女	487	333 (68.4)	3 (0.9)	1 (0.3)	5 (1.5)	334 (68.6)
教 育 学 部	2	男	62	30 (48.4)				30 (48.4)
		女	105	60 (57.1)	1 (1.7)			60 (57.1)
	3	男	51	10 (19.6)				10 (19.6)
		女	114	53 (46.5)				53 (46.5)
	4	男	75	26 (34.7)				26 (34.7)
		女	114	54 (47.4)	1 (1.9)		1 (1.9)	55 (48.2)
	計	男	188	66 (35.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	66 (35.1)
		女	333	167 (50.2)	2 (1.2)	0 (0.0)	1 (0.6)	168 (50.5)
理 工 学 部	2	男	320	132 (41.3)			1 (0.8)	132 (41.3)
		女	39	26 (66.7)				26 (66.7)
	3	男	303	119 (39.3)	2 (1.7)	1 (0.8)	1 (0.8)	119 (39.3)
		女	55	40 (72.7)	1 (2.5)			40 (72.7)
	4	男	373	152 (40.8)	1 (0.7)	1 (0.7)		152 (40.8)
		女	49	26 (53.1)	1 (3.8)		1 (3.8)	26 (53.1)
	計	男	996	403 (40.5)	3 (0.7)	2 (0.5)	2 (0.5)	403 (40.5)
		女	143	92 (64.3)	2 (2.2)	0 (0.0)	1 (1.1)	92 (64.3)
農 学 生 命 科 学 部	2	男	149	95 (63.8)		1 (1.1)		95 (63.8)
		女	77	61 (79.2)				61 (79.2)
	3	男	115	54 (47.0)				54 (47.0)
		女	102	58 (56.9)	1 (1.7)			58 (56.9)
	4	男	145	52 (35.9)	1 (1.9)	1 (1.9)		52 (35.9)
		女	109	76 (69.7)				76 (69.7)
	計	男	409	201 (49.1)	1 (0.5)	2 (1.0)	0 (0.0)	201 (49.1)
		女	288	216 (75.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	195 (67.7)
小 計	男	1,996	864 (43.3)	6 (0.7)	5 (0.6)	2 (0.2)	864 (43.3)	
	女	1,251	808 (64.6)	8 (1.0)	1 (0.1)	7 (0.9)	789 (63.1)	
合 計			3,247	1,672 (51.5)	14 (0.8)	6 (0.4)	9 (0.5)	1,653 (50.9)

※ 一次検診
注) 空欄は該当者なし

④大学院（新入生・医学系学生）・・・胸部 X-P 対象者

大学院	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目						
				胸 部 写 真		尿 検 査 ※			血 圧 測 定	
				受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)	受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)			
							蛋 白	糖	潜 血	受 検 者 数 (%)
人文社会科学研究科	1	男	12	2 (16.7)		2 (16.7)				2 (16.7)
		女	8	1 (12.5)		1 (12.5)				1 (12.5)
教育学研究科	1	男	9	4 (44.4)		4 (44.4)				4 (44.4)
		女	7	4 (57.1)		4 (57.1)				4 (57.1)
医学研究科	1	男	40	2 (5.0)		2 (5.0)				2 (5.0)
		女	16	1 (6.3)		1 (6.3)				1 (6.3)
	2	男	40	1 (2.5)		1 (2.5)				1 (2.5)
		女	26	0 (0.0)		0 (0.0)				0 (0.0)
	3	男	41	1 (2.4)	1 (100.0)	1 (2.4)				1 (2.4)
		女	25	0 (0.0)		0 (0.0)				0 (0.0)
4	男	73	1 (1.4)		1 (1.4)				1 (1.4)	
	女	35	0 (0.0)		0 (0.0)				0 (0.0)	
計	男	194	5 (2.6)	1 (20.0)	5 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (2.6)	
	女	102	1 (1.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	
保健学研究科	1	男	28	6 (21.4)		6 (21.4)				6 (21.4)
		女	12	4 (33.3)		4 (33.3)				4 (33.3)
	2	男	29	6 (20.7)		6 (20.7)				6 (20.7)
		女	23	7 (30.4)		7 (30.4)				7 (30.4)
	3 (後期)	男	17	1 (5.9)		0 (0.0)				1 (5.9)
女		12	0 (0.0)		0 (0.0)				0 (0.0)	
計	男	74	13 (17.6)	0 (0.0)	12 (16.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (17.6)	
	女	47	11 (23.4)	0 (0.0)	11 (23.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (23.4)	
理工学研究科	1	男	128	97 (75.8)	1 (1.0)	97 (75.8)	2 (2.1)		1 (1.0)	97 (75.8)
		女	17	12 (70.6)		12 (70.6)				12 (70.6)
農学生命科学研究科	1	男	45	25 (55.6)		25 (55.6)				25 (55.6)
		女	15	10 (66.7)		10 (66.7)				10 (66.7)
地域社会研究科	1	男	4	0 (0.0)		0 (0.0)				0 (0.0)
		女	1	0 (0.0)		0 (0.0)				0 (0.0)
地域共創科学研究科	1	男	14	12 (85.7)		12 (85.7)		1 (8.3)		12 (85.7)
		女	12	9 (75.0)		9 (75.0)				9 (75.0)
小 計		男	480	158 (32.9)	2 (1.3)	157 (32.7)	2 (1.3)	1 (0.6)	1 (0.6)	158 (32.9)
		女	209	48 (23.0)	0 (0.0)	48 (23.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	48 (23.0)
合 計			689	206 (29.9)	2 (1.0)	205 (29.8)	2 (1.0)	1 (0.5)	1 (0.5)	206 (29.9)

※ 一次検診
注) 空欄は該当者なし

⑤大学院 (秋季入学生)・・・胸部 X-P 対象者

大学院	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目						
				胸 部 写 真		尿 検 査 ※			血 圧 測 定	
				受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)	受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)			受 検 者 数 (%)
							蛋 白	糖	潜 血	
人文社会科学研究科	1	男 女	2 0	1 (50.0)		1 (50.0)				1 (50.0)
医 学 研 究 科	1	男 女	1 1	0 (0.0) 1 (100.0)		0 (0.0) 1 (100.0)				0 (0.0) 1 (100.0)
理工学研究科	1	男 女	4 1	0 (0.0) 0 (0.0)		0 (0.0) 0 (0.0)				0 (0.0) 0 (0.0)
農学生命科学研究科	1	男 女	2 3	2 (100.0) 3 (100.0)		2 (100.0) 3 (100.0)				2 (100.0) 3 (100.0)
地域社会研究科	1	男 女	3 0	3 (100.0)		3 (100.0)				3 (100.0)
小 計		男	12	6 (50.0)	0 (0.0)	6 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (50.0)
		女	5	4 (80.0)	0 (0.0)	4 (80.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (80.0)
合 計			17	10 (58.8)	0 (0.0)	10 (58.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (58.8)

※ 一次検診
注) 空欄は該当者なし

⑥大学院 (医学系以外在学生)

大学院	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目				
				尿 検 査 ※			血 圧 測 定	
				受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)			受 検 者 数 (%)
					蛋 白	糖	潜 血	
人文社会科学研究科	2	男	13	7 (53.8)				7 (53.8)
		女	14	6 (42.86)				6 (42.86)
教育学研究科	2	男	10	1 (10.0)				1 (10.0)
		女	9	3 (33.33)				3 (33.33)
理工学研究科	2	男	118	76 (64.4)		2 (2.63)		76 (64.4)
		女	18	11 (61.1)				11 (61.1)
	3 (後期)	男	12	2 (16.67)				2 (16.67)
		女	4	1 (25.0)				1 (25.0)
計	男	130	78 (60)	0 (0.0)	2 (2.56)	0 (0.0)	78 (60)	
	女	22	12 (54.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (54.5)	
農学生命科学研究科	2	男	30	15 (50)				15 (50)
		女	14	10 (71.43)	1 (10.0)		1 (10.0)	10 (71.43)
地域社会研究科	2	男	5	0 (0.0)				0 (0.0)
		女	2	1 (50.0)				1 (50.0)
	3	男	13	0 (0.0)				0 (0.0)
		女	9	0 (0.0)				0 (0.0)
計	男	18	0 (0.0)				0 (0.0)	
	女	11	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	
地域共創科学研究科	2	男	24	12 (50)				12 (50)
		女	19	8 (42.1)				8 (42.1)
小 計		男	225	113 (50.2)	0 (0.0)	2 (1.77)	1 (0.88)	113 (50.2)
		女	89	40 (44.94)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	40 (44.94)
合 計			314	153 (48.73)	0 (0.0)	2 (1.3)	1 (0.7)	153 (48.73)

※ 一次検診
注) 空欄は該当者なし

(2) 内科検診

大学（入学年次）

学 部	性 別	受 検 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	内科				
				貧 血 疑	甲 状 腺 腫 疑	心 雑 音	不 整 脈	そ の 他
人文社会科学部	男	127	84 (66.1)					1
	女	158	137 (86.7)					4
教 育 学 部	男	63	82 (130.2)			1		
	女	108	83 (76.9)		1	1		1
医 学 部	男	128	124 (96.9)		1	1		3
	女	201	200 (99.5)	1	4			1
理 工 学 部	男	305	241 (79.0)			1		1
	女	56	51 (91.1)					
農学生命科学部	男	124	101 (81.5)			3		1
	女	96	76 (79.2)					1
編 入 学 (学士編入含む)	男	24	22 (91.7)					3
	女	8	8 (100.0)					
小 計	男	771	654 (84.8)	0	1	6	0	9
	女	627	555 (88.5)	1	5	1	0	7
合 計		1,398	1,209 (86.5)	1	6	7	0	16

注) 空欄は該当者なし

(3) 学生特別定期健康診断（対象学生は病院実習とRI実験室に立ち入る学生）

①対象学生・学部及び検査項目・実施時期・回数

対象学部・学科・専攻		学年	検査項目	実施時期	回数	
医学部	医 学 科	2年	末梢血・問診票	4月	1回	
		4年	HBs抗原・抗体、HCV抗体	1月	1回	
	保健学科	看護学 放射線技術科学 検査技術科学 理学療法学 作業療法学	2年	HBs抗原・抗体、HCV抗体	4月	1回
		放射線技術科学	2年	末梢血・問診票	9月	1回
		放射線技術科学	3年・4年	問診票	4月・10月	2回
	心理支援科学科	2年	HBs抗原・抗体、HCV抗体	4月	1回	
	保健学研究科	RI取扱および放射線実習に関 わる学部学生、院生	末梢血（新規のみ）・問診票	5月・11月	2回	
理工学研究科						
農学生命科学部						

②病院実習生（受検率及び結果）

医学部 医学科

学 科	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	肝機能		
					HBs 抗原	HBs 抗体	HCV 抗体
					陽性者数	陽性者数	陽性者数
医 学 科	4	男	66	66 (100.0)		63	
		女	49	49 (100.0)		49	
合 計			115	115 (100.0)	0	112	0

注) 空欄は該当者なし

医学部 保健学科

専 攻	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	肝機能		
					HBs 抗原	HBs 抗体	HCV 抗体
					陽性者数	陽性者数	陽性者数
看 護 学	2	男	6	6 (100.0)		6	
		女	73	73 (100.0)		70	
放射線技術学	2	男	23	23 (100.0)		21	
		女	18	18 (100.0)		18	
検査技術学	2	男	9	9 (100.0)		8	
		女	31	31 (100.0)		31	
理学療法学	2	男	14	14 (100.0)		14	
		女	6	6 (100.0)		6	
作業療法学	2	男	8	8 (100.0)		7	
		女	13	13 (100.0)		13	
小 計			60	60 (100.0)	0	56	0
合 計			141	141 (100.0)	0	138	0
合 計			201	201 (100.0)	0	194	0

注) 空欄は該当者なし

医学部 心理支援科学科

学 科	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	肝機能		
					HBs 抗原	HBs 抗体	HCV 抗体
					陽性者数	陽性者数	陽性者数
心理支援科学科	2	男	2	2 (100.0)		2	
		女	6	6 (100.0)		6	
合 計			8	8 (100.0)	0	8	0

注) 空欄は該当者なし

③ RI 実験室立入実習生 末梢血・自覚症状および皮膚科（問診票）

学部学科等		性別	受検対象者数	受検者数 (%)	第一回目								自覚症状他 (問診票) 受検者数 (%)
					末梢血				血色素量 (g/dl)				
					白血球数 ($10^3/\mu\text{l}$)		血色素量 (g/dl)		女		男		
					4.00未満	4.00 ~ 10.00未満	10.00以上	10未満	10以上	11未満	11以上		
医 学 部	医 学 科 2 年	男	69	69 (100.0)	2	64	3					69	69 (100.0)
		女	57	57 (100.0)	1	53	3		57				57 (100.0)
	保 健 学 科 放射線技術学科 3 年	男	21	0									21 (100.0)
		女	19	0									19 (100.0)
保 健 学 科 放射線技術学科 4 年	男	22	0									21 (95.5)	
	女	26	2	2 (100.0)		2		2				26 (100.0)	
保健学研究科	学生及び大学院	男	1	0									1 (100.0)
		女	1	0									1 (100.0)
理 工 学 部	学生及び大学院	男	35	12	12 (100.0)		11	1				12	35 (100.0)
		女	3	3	3 (100.0)		2	1		3			3 (100.0)
小 計		男	148	81	81 (100.0)	2	75	4			0	81	147 (99.3)
		女	106	62	62 (100.0)	1	57	4	0	62			106 (100.0)
合 計			254	143	143 (100.0)	3	132	8	0	62	0	81	253 (99.6)

学部学科等		性別	受検対象者数	受検者数 (%)	第二回目								自覚症状他 (問診票) 受検者数 (%)
					末梢血				血色素量 (g/dl)				
					白血球数 ($10^3/\mu\text{l}$)		血色素量 (g/dl)		女		男		
					4.00未満	4.00 ~ 10.00未満	10.00以上	10未満	10以上	11未満	11以上		
医 学 部	保 健 学 科 放射線技術学科 2 年	男	23	23 (100.0)	22		1					23	23 (100.0)
		女	18	18 (100.0)	1	17			18				18 (100.0)
	保 健 学 科 放射線技術学科 3 年	男	21	0									21 (100.0)
		女	19	0									19 (100.0)
保 健 学 科 放射線技術学科 4 年	男	22	1	1 (100.0)		1					1	22 (100.0)	
	女	26	0									26 (100.0)	
保健学研究科	学生及び大学院	男	1	0									1 (100.0)
		女	1	0									1 (100.0)
理 工 学 部	学生及び大学院	男	33	1	1 (100.0)		1					1	32 (97.0)
		女	2	0									2 (100.0)
小 計		男	100	25	25 (100.0)	22	2	1			0	25	99 (99.0)
		女	66	18	18 (100.0)	1	17	0	0	18			66 (100.0)
合 計			166	43	43 (100.0)	23	19	1	0	18	0	25	165 (99.4)

4. 職員の健康診断

(1) 定期健康診断受検率及び結果

検査項目	事務局等		人文社会科学部		教育学部		医学研究科		保健学研究科		附属病院		理工学研究科		農学生命科学部		小計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
受検対象者	197	182	65	25	123	103	173	145	57	57	386	946	104	23	89	28	1,194	1,509	2,703
受検者総数(%)	195(99.0)	179(98.4)	59(90.8)	24(96.0)	118(95.9)	94(91.3)	171(98.8)	145(100.0)	57(100.0)	56(98.2)	386(100.0)	944(99.8)	92(88.5)	22(95.7)	84(94.4)	28(100.0)	1,162(97.3)	1,492(98.9)	2,654(98.2)
内訳	32	27	10	8	22	20	22	20	4	10	65	118	20	6	7	2	182	211	393
人間ドック・雇入時健診・健診証明書提出者数																			
受検者(上記以外)	163	152	49	16	96	74	149	125	53	46	321	826	72	16	77	26	980	1,281	2,261
未検者	2(1.0)	3(1.6)	6(9.2)	1(4.0)	5(4.1)	9(8.7)	2(1.2)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.8)	0(0.0)	2(0.2)	12(11.5)	1(4.3)	5(5.6)	0(0.0)	32(2.7)	17(1.1)	49(1.8)
保健管理センターでの受検者(外注・人間ドック・雇入時健診・健診証明書提出者以外)	163	147	49	16	67	36	148	125	53	46	321	826	72	16	60	19	933	1,231	2,164
BMI	8(4.9)	18(12.2)	3(6.1)	4(25.0)	2(3.0)	5(13.9)	4(2.7)	13(10.4)		4(8.7)	10(3.1)	86(10.4)		1(6.3)	3(5.0)	3(15.8)	30(3.2)	134(10.9)	164(7.6)
	82(50.3)	98(66.7)	33(67.3)	8(50.0)	42(62.7)	28(77.8)	84(56.8)	78(62.4)	31(58.5)	30(65.2)	200(62.3)	551(66.7)	45(62.5)	13(81.3)	35(58.3)	11(57.9)	552(59.2)	817(66.4)	1,369(63.3)
	55(33.7)	24(16.3)	12(24.5)	3(18.8)	17(25.4)	3(8.3)	41(27.7)	25(20.0)	20(37.7)	9(19.6)	84(26.2)	113(13.7)	26(36.1)	2(12.5)	17(28.3)	5(26.3)	272(29.2)	184(14.9)	456(21.1)
	13(8.0)	6(4.1)	1(2.0)		6(9.0)		14(9.5)	6(4.8)	2(3.8)	2(4.3)	22(6.9)	44(5.3)			4(6.7)		62(6.6)	58(4.7)	120(5.5)
	3(1.8)						5(3.4)				5(1.6)	10(1.2)	1(1.4)		1(1.7)		15(1.6)	10(0.8)	25(1.2)
	2(1.2)			1(6.3)				3(2.4)		1(2.2)		20(2.4)					2(0.2)	2(0.2)	4(0.2)
胸部写真			1(0.7)			1(2.8)					3(0.9)	6(0.7)			1(1.7)		5(0.5)	8(0.6)	13(0.6)
尿	2(1.2)	2(1.4)				1(2.8)	2(1.4)	2(1.6)	2(3.8)		6(1.9)	14(1.7)					12(1.3)	19(1.5)	31(1.4)
糖	4(2.5)				1(1.5)		1(0.7)	1(0.8)	2(3.8)		5(1.6)	4(0.5)	2(2.8)				15(1.6)	5(0.4)	20(0.9)
潜血		2(1.4)				1(2.8)	1(0.7)	2(1.6)		2(4.3)	1(0.3)	11(1.3)					2(0.2)	18(1.5)	20(0.9)
高血圧者数(%)	60(36.8)	21(14.3)	22(44.9)	2(12.5)	25(37.3)	6(16.7)	67(45.3)	28(22.4)	21(39.6)	16(34.8)	72(22.4)	140(16.9)	20(27.8)	3(18.8)	25(41.7)	3(15.8)	312(33.4)	219(17.8)	531(24.5)
要精検者数(%)	8(4.9)	4(2.7)	6(12.2)		7(10.4)	3(8.3)	3(2.0)	5(4.0)	4(7.5)	2(4.3)	10(3.1)	17(2.1)		1(6.3)	2(3.3)		40(4.3)	32(2.6)	72(3.3)
要指導者数(%)	79(48.5)	79(53.7)	29(59.2)	8(50.0)	30(44.8)	17(47.2)	68(45.9)	56(44.8)	23(43.4)	29(63.0)	146(45.5)	380(46.0)	40(55.6)	6(37.5)	29(48.3)	11(57.9)	444(47.6)	586(47.6)	1,030(47.6)
要指導者数(%)	15(9.2)	3(2.0)	5(10.2)	2(12.5)	2(3.0)		6(4.1)	3(2.4)		1(2.2)	5(1.6)	15(1.8)	3(4.2)		2(3.3)	1(5.3)	38(4.1)	25(2.0)	63(2.9)

その他、週30時間未満勤務者26名受検

(注) 空欄は該当者なし

(2) 生活習慣病健診

①心電図検査

(35歳と40歳以上)

部局名	性別	受検対象者数	受検者数 (%)	内訳		保健管理センター実施分有所見者数 (%)
				人間ドック、外注、雇入時等	保健管理センター	
事務局等	男	151	144 (95.4)	22	122	13 (9.0)
	女	134	128 (95.5)	20	108	10 (7.8)
人文社会科学部	男	53	47 (88.7)	7	40	12 (25.5)
	女	21	19 (90.5)	7	12	3 (15.8)
教育学部	男	102	95 (93.1)	41	54	15 (15.8)
	女	83	76 (91.6)	47	29	2 (2.6)
医学研究科	男	132	125 (94.7)	19	106	26 (20.8)
	女	103	99 (96.1)	9	90	9 (9.1)
保健学研究科	男	48	47 (97.9)	5	42	3 (6.4)
	女	44	44 (100.0)	9	35	4 (9.1)
医学部附属病院	男	141	136 (96.5)	22	114	20 (14.7)
	女	479	478 (99.8)	25	453	54 (11.3)
理工学研究科	男	87	70 (80.5)	18	52	10 (14.3)
	女	16	15 (93.8)	4	11	2 (13.3)
農学生命科学部	男	79	72 (91.1)	20	52	13 (18.1)
	女	20	19 (95.0)	7	12	1 (5.3)
小計	男	793	736 (92.8)	154	582	112 (15.2)
	女	900	878 (97.6)	128	750	85 (9.7)
合計		1,693	1,614 (95.3)	282	1,332	197 (12.2)

所見内容 (のべ人数)

所見	男	女
心筋障害	27	34
WPW 症候群	2	
QT 延長	2	4
心室期外収縮	13	15
上室期外収縮	11	9
心房細動	2	
完全右脚ブロック	11	7
不完全右脚ブロック	9	2
心室内伝導異常	9	6
I 度房室ブロック	10	4
洞性徐脈	12	3
軸偏位	16	10
心室肥大疑	5	
その他	2	2
合計	131	96

注) 空欄は該当者なし

②血液検査(肝機能・血中脂質・血糖・貧血・腎機能)

(35歳,40歳以上)

部局	性別	対象者数	受検者数 (%)	内訳		肝機能判定					血中脂質判定					糖代謝判定					貧血判定					腎機能判定				
				外注・ 雇員管理 センター 等	雇入時・ 7ヶ月 以降 で実施	AST,ALT,γ-GTP					TG,HDL-C,LDL-C					BS					RBC,Hb					e-GFR				
						**A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
事務局等*	男	151	144(95.4)	22	122	61	23	13	21	4	37	29	37	9	10	81	19	7	5	10	107	13	0	2	0	115	6	1	0	
	女	134	128(95.5)	20	108	86	14	3	5	0	60	21	21	3	3	94	8	3	2	1	87	4	7	9	1	96	10	1	1	
人文社会科学部	男	53	47(88.7)	7	40	24	3	4	8	1	15	10	14	0	1	27	7	2	2	2	37	3	0	0	0	37	2	0	1	
	女	21	19(90.5)	7	12	11	1	0	0	0	6	4	1	1	0	10	2	0	0	0	11	1	0	0	0	12	0	0	0	
教育学部	男	102	95(93.1)	41	54	32	11	8	3	0	20	18	9	1	6	37	10	2	0	5	44	8	2	0	0	46	7	0	1	
	女	83	76(91.6)	47	29	29	0	0	0	0	15	4	8	0	2	26	3	0	0	0	22	2	4	1	0	24	4	0	1	
医学研究科	男	132	125(94.7)	19	106	47	22	14	22	1	25	26	28	14	13	69	24	7	2	4	90	13	2	1	0	85	21	0	0	
	女	103	99(96.1)	9	90	72	9	5	4	0	40	26	15	6	3	75	12	2	0	1	73	10	4	3	0	83	7	0	0	
保健学研究科	男	48	47(97.9)	5	42	22	5	4	11	0	13	12	10	5	2	21	11	4	2	4	35	6	1	0	0	33	9	0	0	
	女	44	44(100.0)	10	34	28	1	3	2	0	16	6	9	2	1	28	4	1	0	1	24	5	4	1	0	29	5	0	0	
附属病院	男	141	136(96.5)	22	114	55	19	14	24	2	34	24	39	10	7	75	25	4	3	7	95	17	1	1	0	104	9	0	1	
	女	479	478(99.8)	25	453	352	48	22	30	1	201	113	92	24	23	381	46	9	7	10	361	33	38	16	5	424	27	2	0	
理工学部	男	87	70(80.5)	18	52	39	7	1	4	1	16	13	13	5	5	39	5	3	1	4	46	4	2	0	0	48	4	0	0	
	女	16	15(93.8)	4	11	10	1	0	0	0	6	1	4	0	0	10	1	0	0	0	9	1	1	0	0	8	3	0	0	
農学生命科学部	男	79	72(91.1)	20	52	34	6	4	8	0	19	11	17	2	3	36	7	6	0	3	45	7	0	0	0	45	6	1	0	
	女	20	19(95.0)	7	12	10	0	1	1	0	4	3	5	0	0	11	0	0	1	0	7	3	0	0	2	11	1	0	0	
小計	男	793	736(92.8)	154	582	314	96	62	101	9	179	143	167	46	47	385	108	35	15	39	499	71	8	4	0	513	64	2	3	
	女	900	878(97.6)	129	749	598	74	34	42	1	348	178	155	36	32	635	76	15	10	13	594	59	58	30	8	687	57	3	2	
合計		1,693	1,614(95.3)	283	1,331	912	170	96	143	10	527	321	322	82	79	1,020	184	50	25	52	1,093	130	66	34	8	1,200	121	5	5	

*附置研究所、機構、本部、学内共同教育研究施設等を含む
 **：A：異常なし， B：軽度異常， C：要経過観察， D：要精査，要医療， E：医療継続

③特定健診

(40歳以上75歳未満)

部局名	性別	受検対象者数	受検者数 (%)	腹囲 (%) 男性：85cm以上 女性：90cm以上	特定保健指導		
					積極的支援 レベルの対象者	動機付け 支援レベルの 対象者	情報提供 レベルの対象者
事務局等	男	145	134 (92.4)	79 (59.0)	26	9	99
	女	128	120 (93.8)	15 (12.5)	2	4	114
人文社会科学部	男	53	45 (84.9)	21 (46.7)	4	6	35
	女	17	13 (76.5)	1 (7.7)	0	0	13
教育学部	男	99	85 (85.9)	26 (30.6)	10	11	64
	女	78	64 (82.1)	0 (0.0)	0	2	62
医学研究科	男	128	119 (93.0)	59 (49.6)	11	11	97
	女	98	95 (96.9)	12 (12.6)	2	14	79
保健学研究科	男	46	45 (97.8)	20 (44.4)	10	7	28
	女	44	44 (100.0)	8 (18.2)	0	7	37
医学部附属病院	男	130	123 (94.6)	58 (47.2)	27	13	83
	女	451	448 (99.3)	49 (10.9)	16	34	398
理工学研究科	男	85	63 (74.1)	34 (54.0)	10	8	45
	女	16	15 (93.8)	1 (6.7)	0	0	15
農学生命科学部	男	79	69 (87.3)	32 (46.4)	6	8	55
	女	20	18 (90.0)	4 (22.2)	1	3	14
小計	男	765	683 (89.3)	329 (48.2)	104	73	506
	女	852	817 (95.9)	90 (11.0)	21	64	732
合計		1,617	1,500 (92.8)	419 (27.9)	125	137	1,238

【血糖に関する項目】

空腹時血糖 100mg/dl 以上または薬物治療中

【脂質に関する項目】

中性脂肪 150mg/dl 以上またはHDLコレステロール 40mg/dl 未満または薬物治療中

【血圧に関する項目】

収縮期血圧 130mmHg 以上または拡張期血圧 85mmHg 以上または薬物治療中

④胃検診（ピロリ菌検査）

(対象：40歳) ABC分類

部 局	性別	受検対象者	受検者数 (%)	A	B	C	D	その他
事 務 局 等	男	2	2 (100.0)	1		1		
	女	8	8 (100.0)	7	1			
人文社会科学部	男	2	2 (100.0)	2				
	女	0	0					
教 育 学 部	男	5	3 (60.0)	3				
	女	3	0					
医 学 研 究 科	男	3	1 (33.3)		1			
	女	8	7 (87.5)	4	2			1
保健学研究科	男	3	3 (100.0)	3				
	女	0	0					
医学部附属病院	男	13	11 (84.6)	7	2			2
	女	21	21 (100.0)	9	6	1		5
理工学研究科	男	2	1 (50.0)	1				
	女	0	0					
農学生命科学部	男	1	1 (100.0)	1				
	女	0	0					
小 計	男	31	24 (77.4)	18	3	1	0	2
	女	40	36 (90.0)	20	9	1	0	6
合 計		71	60 (84.5)	38	12	2	0	8

⑤便潜血（便中Hb）検査

(40歳以上)

部 局	性別	受検対象者	受検者数 (%)	陽性者数 (%)
事 務 局 等	男	145	23 (15.9)	3 (13.0)
	女	128	19 (14.8)	0 (0.0)
人文社会科学部	男	53	8 (15.1)	1 (12.5)
	女	17	3 (17.6)	0 (0.0)
教 育 学 部	男	99	17 (17.2)	3 (17.6)
	女	78	8 (10.3)	1 (12.5)
医 学 研 究 科	男	128	25 (19.5)	5 (20.0)
	女	98	19 (19.4)	1 (5.3)
保健学研究科	男	46	11 (23.9)	2 (18.2)
	女	44	8 (18.2)	1 (12.5)
医学部附属病院	男	130	27 (20.8)	1 (3.7)
	女	453	82 (18.1)	4 (4.9)
理工学研究科	男	85	8 (9.4)	0 (0.0)
	女	16	3 (18.8)	0 (0.0)
農学生命科学部	男	79	13 (16.5)	0 (0.0)
	女	20	0 (0.0)	
小 計	男	765	132 (17.3)	15 (11.4)
	女	854	142 (16.6)	7 (4.9)
合 計		1,619	274 (16.9)	22 (8.0)

(3) 特定業務従事者結果（深夜業務従事者、病原体・ホルムアルデヒド・エチレンオキシドを扱う業務従事者）

春期

受検対象者	受検者数 (%)	血圧測定		尿検査			視力（問診）	聴力（問診）
		受検者数	要観察数（%）	受検者数	有所見者数		日常生活や就労 に支障あり	日常生活や就労 に支障あり
					糖（%）	蛋白（%）		
526	526（100.0）	526	30（5.7）	526	13（2.5）	9（1.7）	3	3

(4) 情報機器作業従事者結果

問診回答者数	A 作業区分人数 (常時性あり)	B 作業区分人数 (拘束性あり)	眼疲労を主とする問診高得点者数 19点以上 / 30点 (%)
1,109	374	57	22 (2.0)

(5) 特殊健康診断結果

春 期

現所属	実人員			放射線			鉛			有機リン			有機溶剤			特化物		
	従事者数	健診七実施者	再実施	従事者数	健診七実施者	再実施	従事者数	健診七実施者	再実施	従事者数	健診七実施者	再実施	従事者数	健診七実施者	再実施	従事者数	健診七実施者	再実施
文京町地区	保健管理センター	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人文社会科学部	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育学部	2	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	2	0	1	1	0
	理工学研究科	17	15	2	12	10	2	1	1	0	0	0	8	8	0	7	7	0
	農学生命科学部	16	16	0	2	2	0	0	0	2	2	0	12	12	0	6	6	0
	地域戦略研究所	2	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
文京町 集計	40	38	2	18	16	2	3	3	0	2	2	0	22	22	0	15	15	0
本町地区	アイソトープ総合実験室	3	3	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	COI研究推進機構	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医学研究科	126	121	5	98	93	5	0	0	0	0	0	31	30	1	12	12	0
	保健学研究科	20	20	0	19	19	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	医学部附属病院	429	408	21	411	390	21	0	0	0	0	0	19	19	0	0	0	0
	被ばく医療総合研究所	11	11	0	8	8	0	0	0	0	0	0	4	4	0	1	1	0
本町 集計	589	563	26	539	513	26	0	0	0	0	0	55	54	1	13	13	0	
金木農場 集計	6	6	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	4	4	0	0	0	0
藤崎農場 集計	9	9	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0	3	3	0	0	0	0
総 計	644	616	28	557	529	28	3	3	0	16	16	0	84	83	1	28	28	0

秋 期

現所属	実人員			放射線			鉛			有機リン			有機溶剤			特化物		
	従事者数	健診七実施者	追実施	従事者数	健診七実施者	追実施	従事者数	健診七実施者	追実施	従事者数	健診七実施者	追実施	従事者数	健診七実施者	追実施	従事者数	健診七実施者	追実施
文京町地区	保健管理センター	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人文社会科学部	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教育学部	4	4	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	2	0	1	1	0
	理工学研究科	28	28	0	12	12	0	1	1	0	0	0	8	8	0	7	7	0
	農学生命科学部	19	19	0	2	2	0	0	0	2	2	0	10	10	0	5	5	0
	地域戦略研究所	3	0	3	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
文京町 集計	57	54	3	18	17	1	3	2	1	2	2	0	20	20	0	14	13	1
本町地区	アイソトープ総合実験室	3	3	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	COI研究推進機構	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医学研究科	160	147	13	120	108	12	0	0	0	0	0	32	31	1	8	8	0
	保健学研究科	19	18	1	19	18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医学部附属病院	418	384	34	399	366	33	0	0	0	0	0	18	17	1	1	1	0
	被ばく医療総合研究所	12	11	1	7	6	1	0	0	0	0	0	4	4	0	1	1	0
本町 集計	612	563	49	548	501	47	0	0	0	0	0	54	52	2	10	10	0	
金木農場 集計	9	9	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	
藤崎農場 集計	10	10	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0	
総 計	688	636	52	573	525	48	3	2	1	2	2	0	74	72	2	36	35	1

(6) ストレスチェック結果

部局名	対象職員	受検者	回答率	高ストレス者	高ストレス者率	産業医との面接実施			産業医との面接実施率
						面接指導	健康相談		
文京町地区	727	705	97.0%	67	9.5%	6	6	0	9.0%
本町地区	1,830	1,628	89.0%	217	13.3%	11	11	0	5.1%
学園町地区	84	76	90.5%	5	6.6%	0	0	0	0.0%
その他地区	40	28	70.0%	4	14.3%	0	0	0	0.0%
合計	2,681	2,437	90.9%	293	12.0%	17	17	0	5.8%

*その他地区／藤崎町、金木町、青森市、八戸市、東京都

5. 教育学部附属学校定期健康診断受検状況

尿検査

学校名	性別	受検対象者数	受検者数 (%)
小学校	男	224	224 (100.0)
	女	249	249 (100.0)
中学校	男	191	191 (100.0)
	女	188	188 (100.0)
特別支援学校	男	42	42 (100.0)
	女	10	10 (100.0)
幼稚園	男	24	24 (100.0)
	女	17	17 (100.0)
小計	男	481	481 (100.0)
	女	464	464 (100.0)
合計		945	945 (100.0)

心電図検査

学校名	性別	受検対象者数	受検者数 (%)
小学校1年生	男	34	32 (94.1)
	女	37	36 (97.3)
中学校1年生	男	58	57 (98.3)
	女	68	66 (97.1)
特別支援学校1年生 (小学部・中学部・高等部)	男	14	14 (100.0)
	女	1	1 (100.0)
小計	男	106	103 (97.2)
	女	106	103 (97.2)
合計		212	206 (97.2)

6. 保健管理センター月別利用状況

学生

学部別	科目 性別	内科	外科	整形外科	婦人科	皮膚科	耳鼻科	眼科	泌尿器科	脳神経外科	歯科	精神科	その他	健康診断	検査項目				合計	証明書		合計	備考
															血圧測定	心電図	尿検査	その他		センター発行	自動発行機発行		
4月	男	1	1			1						5	1	2				11	28		28	科目のその他は、復学時健康診断、健康相談等。 教育学部附属学校 ①心電図検査 計206名 小学校1年 男32名 女36名 中学校1年 男57名 女66名 特別支援学校 (小1・中1・高1) 男14名 女1名 ②尿検査 計945名 幼稚園 男24名 女17名 小学校 男224名 女249名 中学校 男191名 女188名 特別支援学校 男42名 女10名	
	女	1	2		1	1		1				7	2	1				16			16		
5月	男	8	1	1								3		6	2			21	25	95	120		
	女	3		1								5	1	2				12					
6月	男	10	1			3						1	1	2	1			19	62	192	254		
	女	10	3	6	2	3	2					7	1	7	1			42					
7月	男	3		2		3	1							18	4			31	67	127	194		
	女	2	3	2			1	1				17	1	10	3			40					
8月	男	1												1				2	6	63	69		
	女	5	4	1								5			1			16					
9月	男	1					1					3	3					8	11	68	79		
	女	3	1			1			1			3						9					
10月	男	3	2	2								1						8	6	43	49		
	女			2								3						5					
11月	男	3	1			3									3			10	8	20	28		
	女	5		2	2		2					3			2			16					
12月	男	3	1	1		1			1			8			2			17	9	23	32		
	女	3	1	1		1						2	1					9					
1月	男	4	1							1		1						6		23	23		
	女	4		1					1			1						7					
2月	男	3		1		1	1					5						11		218	218		
	女	2		1								2						5					
3月	男	1										3	1					5	16	168	184		
	女			1			1					1	6	1				10					
小計	男	41	8	7	0	12	3	0	0	1	0	27	8	28	14	0	0	149					
	女	38	14	18	5	6	6	2	0	2	0	56	12	20	8	0	0	187					
合計		79	22	25	5	18	9	2	0	3	0	83	20	48	22	0	0	336	238	1,040	1,278		

*内科：感冒、腹痛等

*皮膚科：刺咬症、口唇ヘルペス等

*精神科：カウンセリングからの診察等

*外科：切創、擦過傷等

*耳鼻科：眩暈等

*その他：どれにも該当しない場合

*整形外科：腰痛、骨折、捻挫等

*脳神経外科：片頭痛等

職員

学部別	科目 性別	内科	外科	整形外科	婦人科	皮膚科	耳鼻科	眼科	泌尿器科	脳神経外科	歯科	精神科	その他	健診 精査	検査項目				その他			合計	備考		
															血圧測定	心電図	尿検査	その他	胃検診(ABC検診)	便中Hb	定期心電図				
4月	男女			1			1															1	1		
5月	男女	2		1								1											4	1	
6月	男女	1										1	1										3	0	
7月	男女		1															8				301	310	169	
8月	男女	2												1									0	4	
9月	男女	4				1																	0	5	
10月	男女	3														1							4	1	
11月	男女			1								2	2								1	50	53	607	
12月	男女	1								1											14	234	250	17	
1月	男女	1					1															132	143	143	
2月	男女	2					1			1													5	2	
3月	男女	1											1	1									3	2	
小計	男女	11	1	1	0	0	2	0	0	2	0	4	2	1	2	0	0	0	0	23	132	585	766		
	男女	7	0	3	1	1	1	0	0	0	1	2	3	0	2	0	0	0	0	37	142	752	952		
合計		18	1	4	1	1	3	0	0	2	1	6	5	1	4	0	0	0	0	60	274	1,337	1,718		

*内科：感冒、腹痛等

*皮膚科：刺咬症、口唇ヘルペス等

*精神科：カウンセリングからの診察等

*外科：切創、擦過傷等

*耳鼻科：眩暈等

*その他：どれにも該当しない場合

*整形外科：腰痛、骨折、捻挫等

*脳神経外科：片頭痛等

月別医療機関紹介状数(学生・職員)

月	男		女	
	健診	一般	健診	一般
4月		4		3
5月	4	6	2	6
6月	1	3	4	12
7月	3	2		6
8月		1		6
9月		0		4
10月		4		3
11月		2		6
12月		4		1
1月		5		3
2月		4		3
3月	1	1	1	4
計	9	36	7	57
		その他	英文の診断書	7

Ⅲ 令和5年度カウンセリング報告

令和5年度 カウンセラー業務等報告

令和5年度は、専任カウンセラー田名場美雪、高橋恵子、および非常勤カウンセラー浅原奈苗（学外）で保健管理センター（文京キャンパス）および医学部本町キャンパスで相談活動にあたった。

1. 月別利用状況（上段は事例数、下段は面接延べ数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
学 部 生	24 (49)	22 (46)	20 (50)	27 (60)	4 (27)	9 (25)	19 (56)	12 (48)	14 (48)	17 (44)	9 (34)	12 (35)	189 (522)
学 部 留 年 生	2 (2)	0 (2)	1 (2)	0 (1)	1 (1)	1 (2)	0 (4)	0 (7)	0 (6)	0 (4)	0 (1)	0 (3)	5 (35)
大 学 院 生	9 (15)	1 (5)	2 (8)	2 (4)	1 (4)	4 (5)	1 (2)	1 (1)	3 (5)	2 (2)	1 (2)	3 (3)	30 (56)
そ の 他 学 生	0 (0)	1 (2)	0 (4)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (9)
卒 業 生	0 (3)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	0 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (10)	3 (21)
家 族 等	2 (6)	0 (2)	0 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	9 (17)
教 職 員	7 (17)	5 (10)	0 (5)	2 (4)	2 (3)	1 (6)	0 (3)	3 (4)	4 (11)	2 (8)	3 (9)	2 (5)	31 (85)
教職員の家族等	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
新規事例数合計	44	29	23	32	9	16	20	17	21	22	13	22	268
面接延べ数合計	(92)	(69)	(73)	(73)	(41)	(39)	(65)	(61)	(70)	(59)	(46)	(58)	(746)

2. 主問題別事例数・面接延べ数

(1) 学部生・留年学部生・大学院生・その他学生・卒業生からの相談内容

	精神疾患	性格・心理 ・行動	生活全般	進路	学業	対人関係	コンサル テーション	計
人 社	11 (23)	26 (67)	7 (16)	3 (4)	6 (32)	3 (4)	0 (0)	56 (146)
教 育	6 (9)	13 (69)	1 (15)	2 (8)	5 (25)	5 (6)	0 (0)	32 (132)
理 工	16 (22)	14 (33)	7 (20)	5 (15)	9 (20)	5 (18)	1 (1)	57 (129)
医	10 (44)	11 (24)	3 (5)	0 (0)	4 (8)	5 (6)	0 (0)	33 (87)
農 生	12 (50)	14 (30)	9 (25)	0 (0)	7 (10)	2 (2)	0 (0)	44 (117)
そ の 他	1 (7)	3 (19)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (5)	0 (0)	6 (32)
新規事例数合計	56	81	28	10	31	21	1	228
面接延べ数合計	(155)	(242)	(82)	(27)	(95)	(41)	(1)	(643)

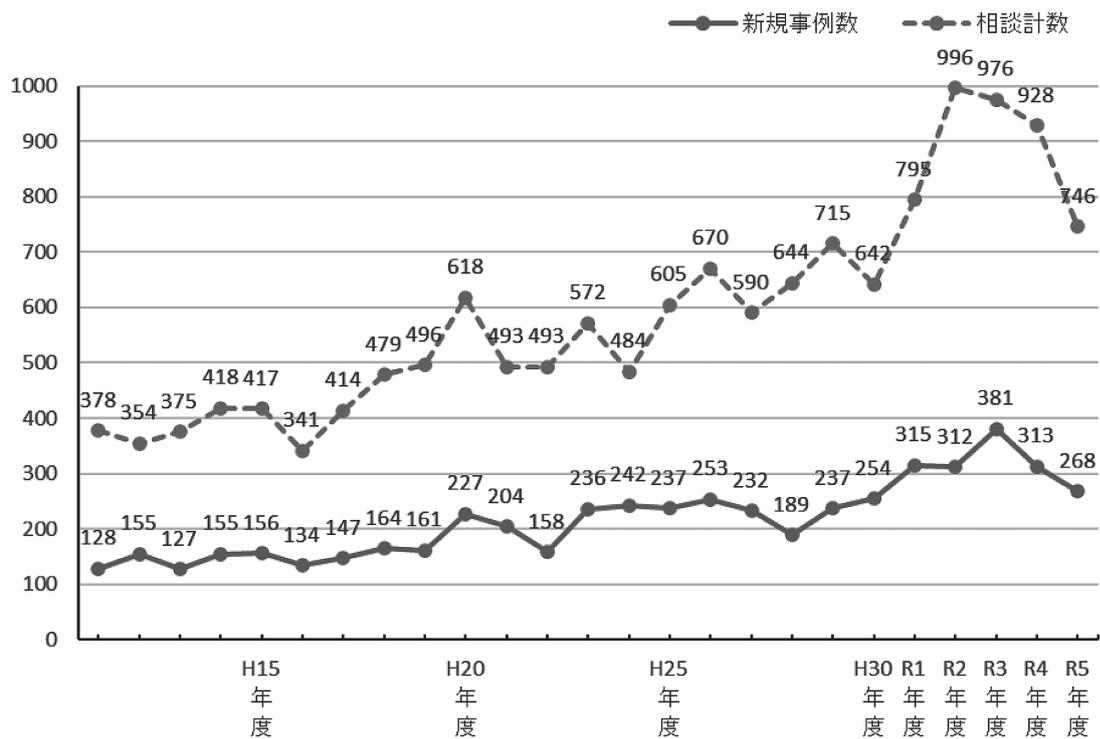
(2) 教職員からの相談内容

相談内容	事例数	面接延数
学生についてのコンサルテーション	22	(54)
教職員についてのコンサルテーション	0	(0)
心身の健康問題	8	(30)
対人関係	1	(1)
合 計	31	85

3. 相談形態ごとの相談件数

相談形態	面談	メール	電話	手紙	合計
延べ数	620	92	33	1	746

4. 利用状況推移



IV 保健管理センター概況

保健管理センター概況 (令和5年4月1日現在)

(1) 保健管理センター運営委員会

委員長	佐藤 研	(保健管理センター所長・教授)
副委員長	青木 昌彦	(医学部附属病院放射線部長・教授)
委員	城本 るみ	(人文社会科学部教授)
〃	田中 完	(教育学部教授)
〃	三上 達也	(大学院医学研究科教授)
〃	大津 美香	(保健学研究科教授)
〃	前田 拓人	(理工学研究科教授)
〃	濱田 茂樹	(農学生命科学部准教授)
〃	齋藤 紀先	(医学部附属病院准教授)
〃	三上 徹	(学務部学生課長)
〃	後藤 真吾	(総務部人事課長)
〃	大平 隆人	(施設環境部施設環境整備課長)

(2) 職員

所長	佐藤 研	教授
カウンセラー	田名場 美雪	准教授
カウンセラー	高橋 恵子	講師
看護師	工藤 誓子	
〃	嘉山 恵子	
〃	澤田 友美	
保健管理担当	平田 成直	係長
事務補佐員	本田 鏡子	
臨床検査技師	檜木 英子	
検査助手	相馬 亜妃子	
カウンセラー	浅原 奈苗	学外カウンセラー

(3) 学校医

主任学校医	(泌尿器科)	大山 力	医学部附属病院長
学校医	(内科)	珍田 大輔	医学部附属病院准教授
〃	(内科)	富田 泰史	大学院医学研究科教授
〃	(内科)	蔭山 和則	大学院医学研究科准教授
〃	(内科)	佐藤 研	保健管理センター所長
〃	(神経精神科)	斉藤 まなぶ	保健学研究科教授
〃	(眼科)	上野 真治	大学院医学研究科教授
〃	(耳鼻咽喉科)	佐々木 亮	大学院医学研究科准教授
〃	(皮膚科)	松崎 康司	医学部附属病院講師
〃	(整形外科)	和田 簡一郎	医学部附属病院講師
〃	(外科)	室谷 隆裕	大学院医学研究科助教
〃	(小児科)	伊東 竜也	医学部附属病院助教
歯科学校医		久保田 耕世	医学部附属病院講師
学校薬剤師		磯木 雄之輔	弘前市薬剤師会 (学外)

編集後記

本年度も、当センターでは学生及び教職員の皆さまの心身の健康管理に向けた活動に取り組んでまいりました。その一端を、ここに概要としてご報告させていただきます。昨今、ウェルビーイングという言葉が広くもてはやされる中、日々のセンターの活動においては目に見える数値だけでは計り知れない側面があることを実感しています。目に見えないものは、実際に心を介して関わらなければ理解することが難しいものですが、学生たちにとって、そのような経験ができたと思える大学生活であってほしいと願っています。

このところ、寄る年波には逆らえず、日々の食事内容や運動、睡眠に加え、最近では入浴の時間も以前より意識するようになりました。感染症や食糧難が懸念される今、生活のあらゆる面において健康への配慮が求められています。

本センターの活動は、数値に表れにくいものの、一人ひとりに寄り添う取り組みであり、皆さまとの連携なくしては成り立ちません。日頃のご支援に深く感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。皆さまの健やかな毎日を心よりお祈りいたします。

(高橋 恵子)

弘前大学保健管理概要 45号

令和6年

発行編集者 弘前大学保健管理センター
青森県弘前市文京町1
TEL (0172) 39-3128
